



証券コード：7932

株式会社ニッピ

2024年3月期第2四半期
決算説明資料

2023年11月16日



INDEX

1

2024年3月期第2四半期 決算概要

2

2024年3月期業績予想

3

APPENDIX

1

2024年3月期第2四半期 決算概要

2024年3月期第2四半期 決算概要（連結）

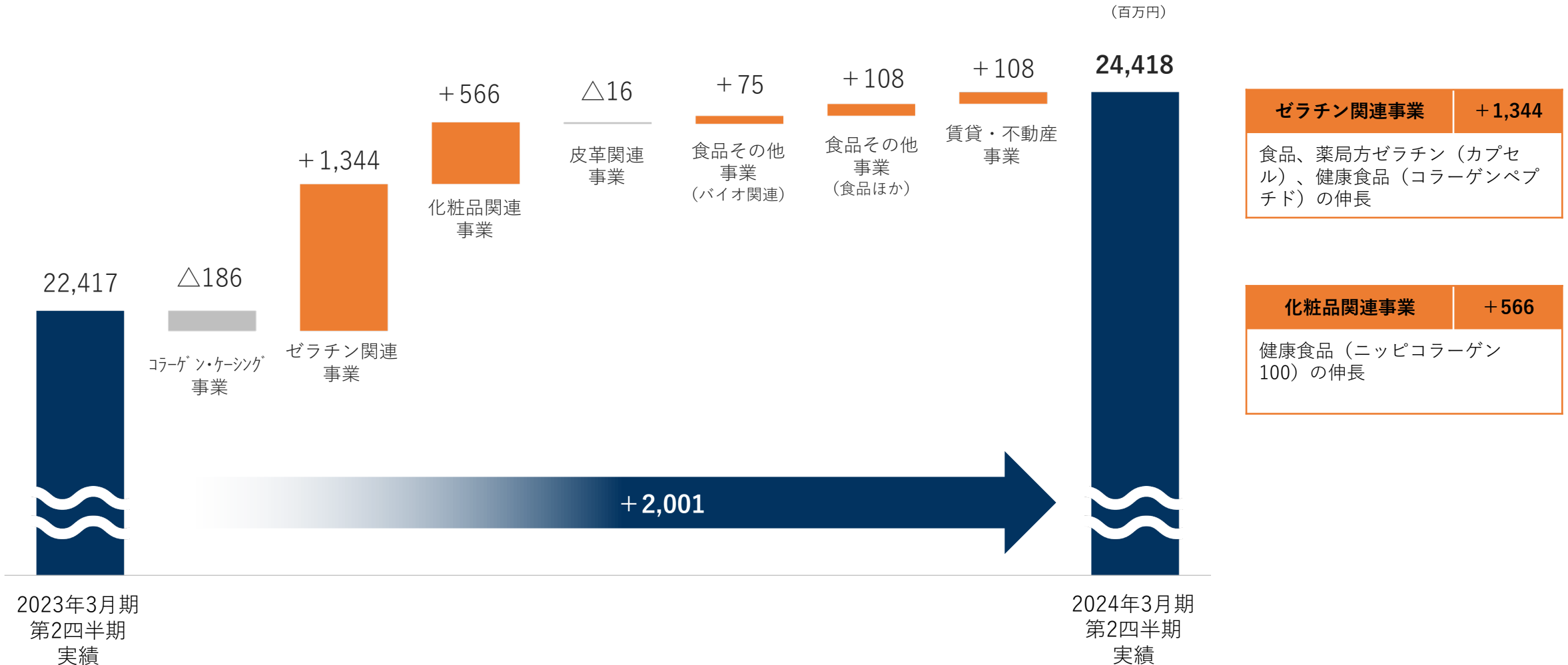
売上高・利益とも好調に推移、各利益段階で期初予想を大幅に上回った

単位：百万円	2023年3月期 2Q実績	2024年3月期 2Q当初予想	2024年3月期 2Q実績 ※	前年同期比 (24.3期2Q実績/23.3期2Q実績)
売上高	22,417	23,000	24,418	+ 8.9%
営業利益	1,027	600	1,830	+ 78.2%
営業利益率	4.6%	2.6%	7.5%	+ 2.9P
EBITDA [※]	1,975	—	2,741	+ 38.7%
経常利益	1,239	600	1,916	+ 54.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	831	400	1,377	+ 65.7%

※EBITDA = 経常利益 + 支払利息 + 減価償却費

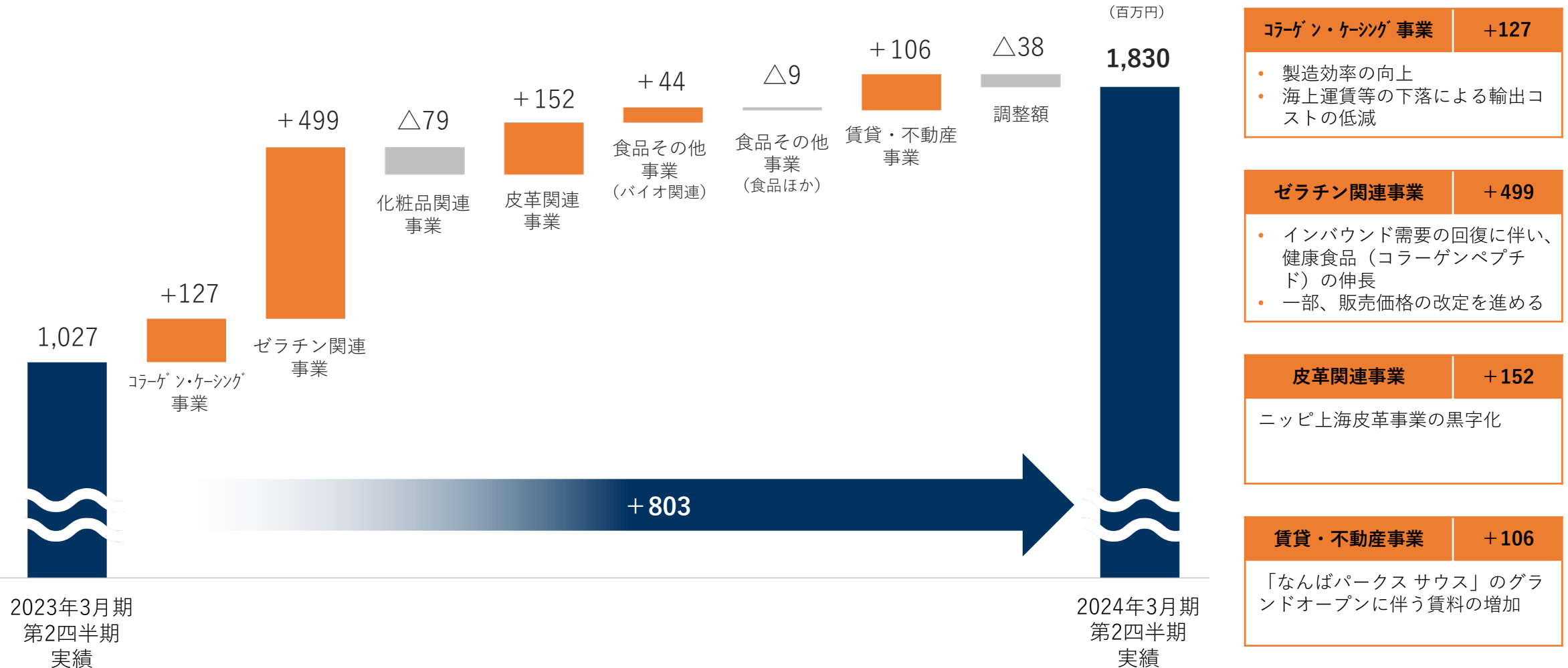
連結売上高 増減要因分析

健康食品関連が伸び、ゼラチン関連事業及び化粧品関連事業が成長



連結営業利益 増減要因分析

インバウンド需要の回復に伴い、ゼラチン関連事業が業績をけん引



コラーゲン・ケーシング事業	+127
<ul style="list-style-type: none"> 製造効率の向上 海上運賃等の下落による輸出コストの低減 	

ゼラチン関連事業	+499
<ul style="list-style-type: none"> インバウンド需要の回復に伴い、健康食品（コラーゲンペプチド）の伸長 一部、販売価格の改定を進める 	

皮革関連事業	+152
ニッピ上海皮革事業の黒字化	

賃貸・不動産事業	+106
「なんばパークス サウス」のグランドオープンに伴う賃料の増加	

セグメント別業績（連結）

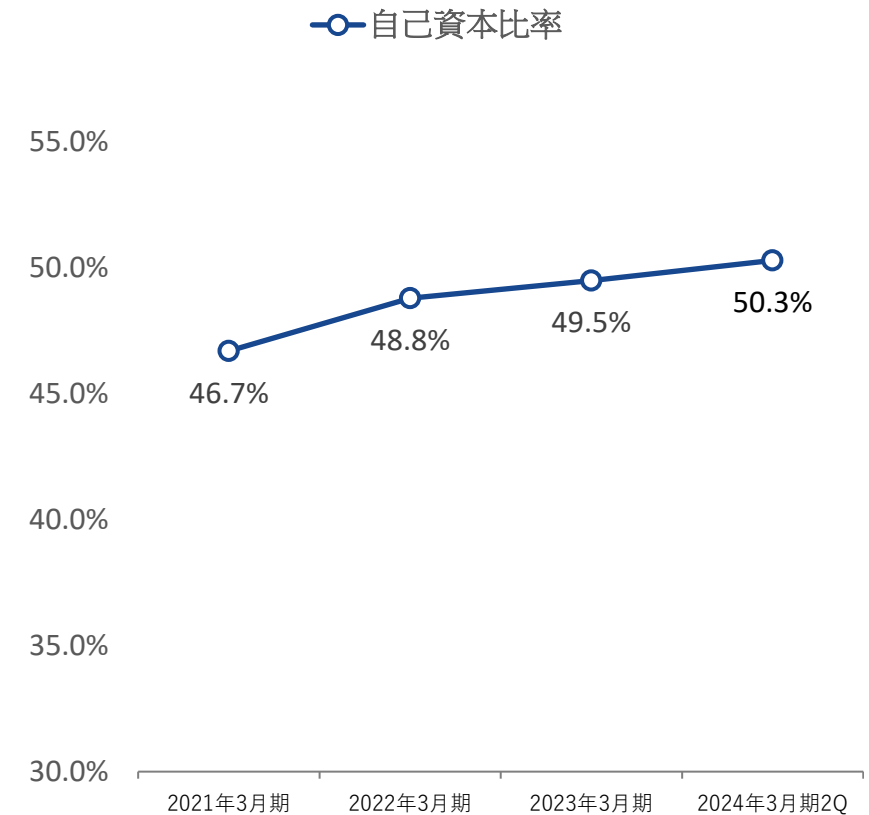
売上高は堅調に推移、販売価格の一部改定によりコスト高を吸収し増益

単位：百万円	売上高				営業利益			
	2023年3月期 2Q実績	2024年3月期 2Q実績	前期同期比		2023年3月期 2Q実績	2024年3月期 2Q実績	前期同期比	
			金額	比率			金額	比率
コラーゲン・ ケーシング事業	4,942	4,755	△186	△3.8%	387	515	+127	+33.0%
ゼラチン関連事業	5,764	7,108	+1,344	+23.3%	436	936	+499	+114.4%
化粧品関連事業	3,135	3,702	+566	+18.1%	517	437	△79	△15.5%
皮革関連事業	3,752	3,735	△16	△0.4%	4	157	+152	+3101%
食品その他事業 (バイオ関連)	391	466	+75	+19.2%	33	78	+44	+132.6%
食品その他事業 (食品ほか)	4,016	4,124	+108	+2.7%	119	109	△9	△8.1%
賃貸・不動産事業	415	524	+108	+26.2%	311	417	+106	+34.2%
調整額	—	—	—	—	△784	△ 822	△38	—
合計	22,417	24,418	+2,001	+8.9%	1,027	1,830	+803	+78.2%

連結貸借対照表

純資産の増加に伴い、自己資本比率が50%を超える

単位：百万円	23年3月期 期末	24年3月期 2Q	増減額
流動資産	26,766	28,793	+2,026
現預金残高	7,012	6,550	△461
固定資産他	42,797	42,865	+68
資産合計	69,564	71,659	+2,095
流動負債	17,434	18,032	+597
固定負債	17,052	16,905	△146
純資産	35,077	36,721	+1,643
負債・純資産合計	69,564	71,659	+2,095
自己資本比率 [※]	49.5%	50.3%	+0.7p

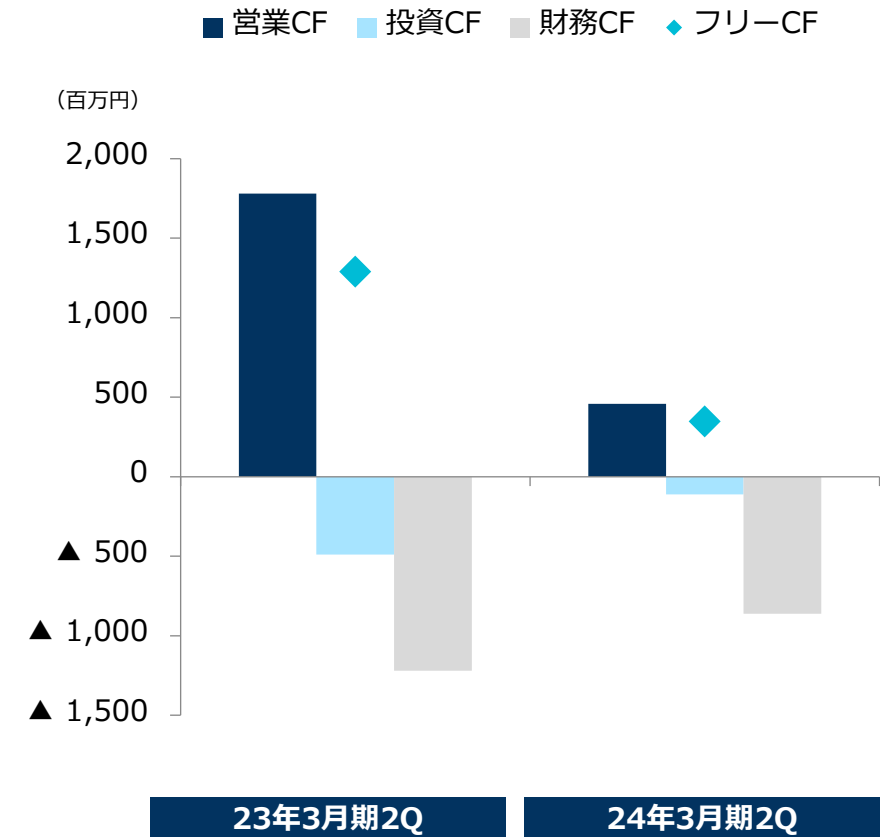


※ 自己資本比率 = 自己資本 / 総資産 × 100 / 自己資本 = 純資産 - 新株予約権 - 被支配株主持分

キャッシュ・フローの状況（連結）

一時的に運転資金が増加し、営業CF及びフリーCFは減少

単位：百万円	2023年3月期 2Q実績	2024年3月期 2Q実績	前年同期比
営業活動による キャッシュ・フロー	1,780	458	△1,322
投資活動による キャッシュ・フロー	△490	△111	+378
フリー・キャッシュ・フロー	1,290	347	△943
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,220	△861	+358
現金及び現金同等物の 増減額	163	△461	△625
現金及び現金同等物の 期末残高	6,785	6,377	△407



5

2024年3月期業績予想

2024年3月期 連結業績予想

各利益段階で期初予想を超過、業績予想を上方修正

単位：百万円	2023年3月期 実績	2024年3月期 当初予想	2024年3月期 修正予想 (11月8日公表)	当初予想比 (修正予想/当初予想)
売上高	44,811	47,000	49,000	+ 4.3%
営業利益	1,471	1,600	3,000	+ 87.5%
営業利益率	3.3%	3.4%	6.1%	+ 2.7P
経常利益	1,553	1,500	3,000	+ 100.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,169	1,000	2,000	+ 100.0%
1株当たり当期純利益 (円)	406.79	347.70	695.42	+ 100.0%

※ 2024年3月期の期末配当は、配当性向23%から25%を目安として決算確定時に判断

3

APPENDIX



代表取締役社長 伊藤裕子

自然の創造物を人々の暮らしへ

1907年の創業来、当社は「良いもの」をつくることにこだわってまいりました。品質第一を信念に、お客さまの要望にお応えする製品を提供すること、これが、創業以来変わらない当社の経営方針です。当社は、事業の要となるコラーゲンにいち早く着目し、その研究を続けてまいりました。コラーゲン業界の先駆企業としての自負をもちながら、今なお新たな分野に挑戦し続けています。今後さらに50年、100年の歴史をつくるためにも、「つぎの良いものを創ること」に取り組んでまいります。

2004年9月 当社入社
2014年10月 大倉フーズ株式会社取締役
2015年7月 当社執行役員
2017年6月 株式会社ニッピコラーゲン化粧品取締役
2019年6月 同社常務取締役
2019年7月 当社経営企画室プロジェクトリーダー

2021年6月 当社取締役、経営企画室長、
化粧品・健康食品事業部・関係会社、知財担当
2021年6月 株式会社ニッピコラーゲン化粧品代表取締役社長
2023年4月 当社代表取締役社長（現）
2023年6月 一般社団法人日本皮革研究所理事長（現）

会社概要



商号	株式会社ニッピ (Nippi, Incorporated)
本社所在地	〒120-8601 東京都足立区千住緑町1-1-1
ホームページ	https://www.nippi-inc.co.jp/
設立	1907年（明治40年）4月1日
資本金	4,404百万円
証券取引所	東京証券取引所スタンダード市場（証券コード：7932）
代表者	代表取締役社長 伊藤 裕子
事業所	生産拠点： テクノセンター（東京都） 富士工場（静岡県） 富士宮工場（静岡県） 芝川工場（静岡県） 研究所： バイオマトリックス研究所

事業内容

コラーゲン・ケーシング事業
ゼラチン関連事業
化粧品関連事業
皮革関連事業
賃貸・不動産業
食品その他の事業

主な子会社

株式会社ニッピコラーゲン化粧品 <https://www.nip-col.jp/>
株式会社ニッピ・フジタ <https://nippi-fujita.com/>
大鳳商事株式会社
大倉フーズ株式会社 <https://www.okurafs.co.jp/>
NIPPI COLLAGEN NA INC.
日皮（上海）貿易有限公司
日皮胶原蛋白（唐山）有限公司
ニッピ都市開発株式会社
株式会社ボーグ

関連会社

株式会社マトリクソーム <https://matrixome.co.jp/>

関連団体

一般財団法人日本皮革研究所 <http://www.jilr.or.jp/>

本社ビル

テクノセンター

富士工場

富士宮工場

芝川工場

バイオマトリックス研究所



当社のDNAとありたい姿

当社のDNA

「**生み、育み、支える**」

ものづくりへのこだわり

高品質

ユニーク

先取り

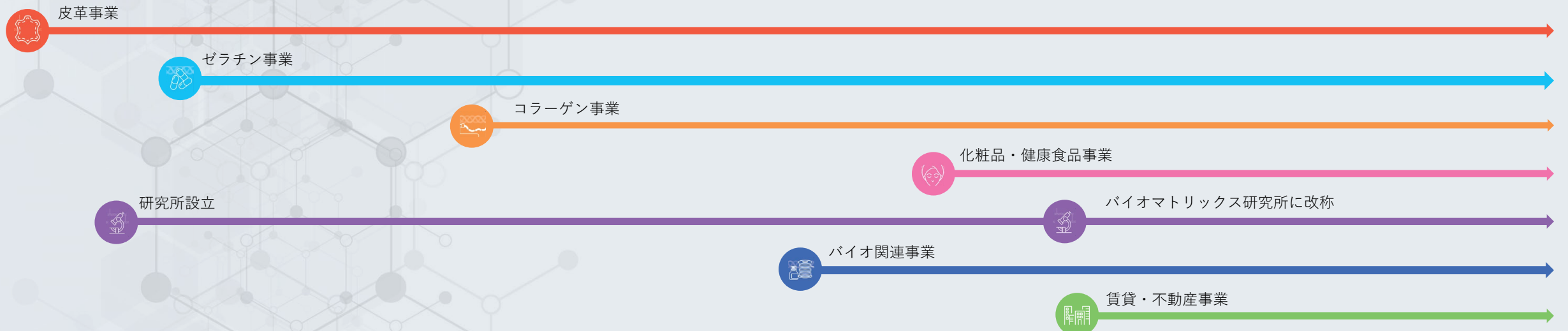
ありたい姿

タンパク質研究の
エキスパートとして
人々の生活の質の
向上に貢献する

食・健康・医療関連分野におけるニッチトップを目指し
ユニークな製品・サービスを提供

事業創出の歴史

副産物のアップサイクルにより新たな事業を展開

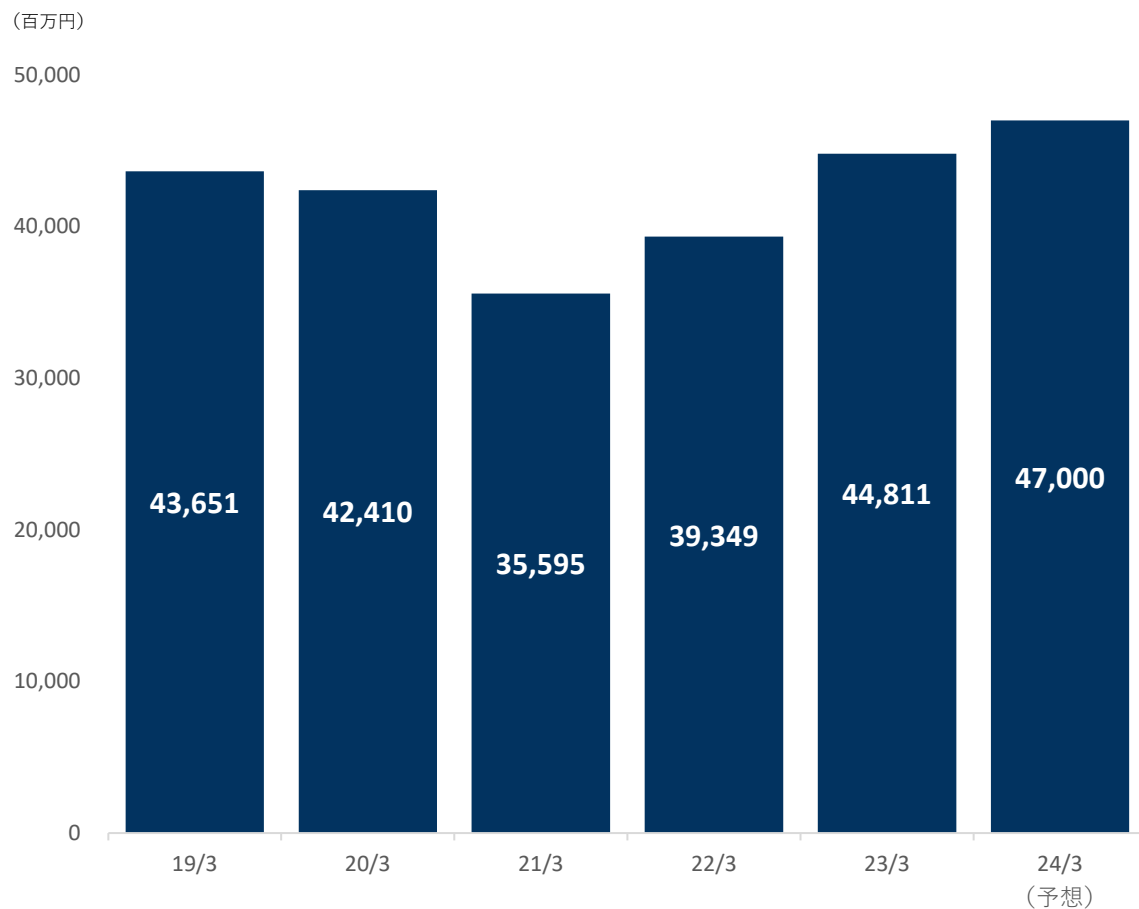


コラーゲン研究から生まれたコラーゲン・ゼラチン製品群

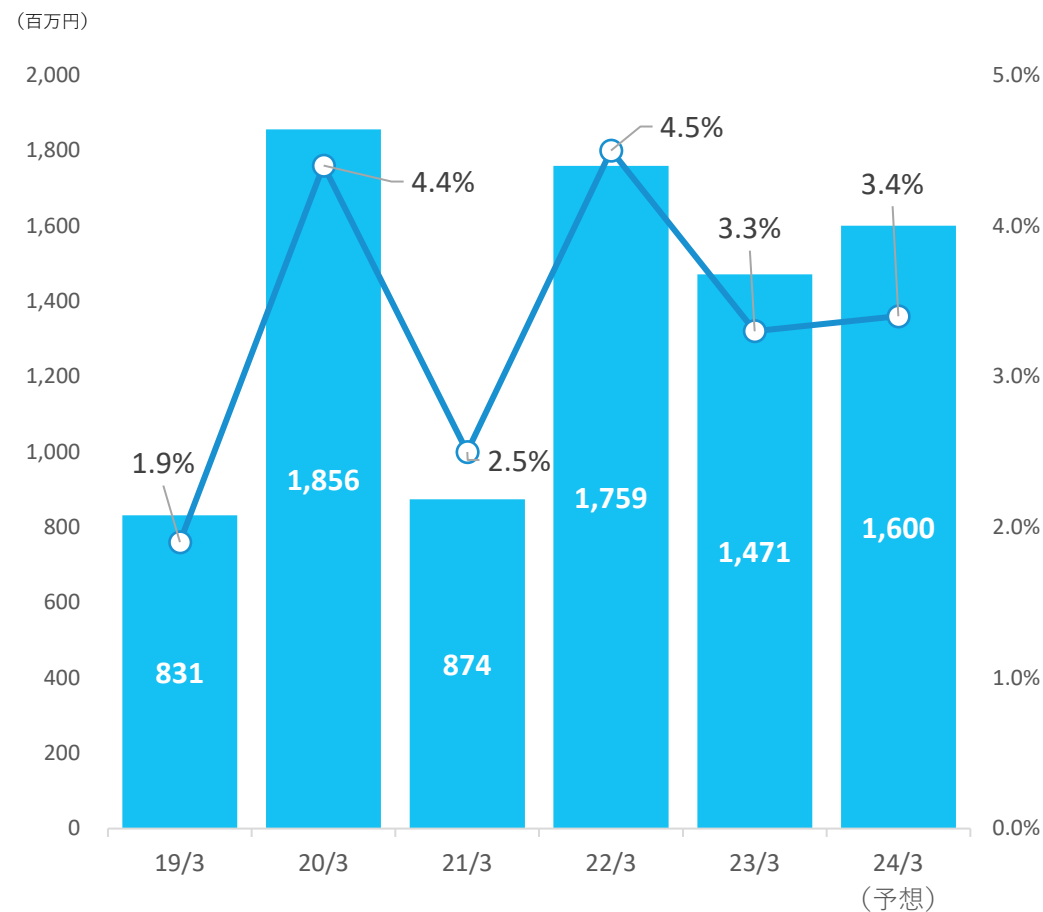
品質にこだわり、前例にこだわらず、
新たな製品開発に挑戦し続ける



売上高



営業利益 / 営業利益率



事業紹介



ゼラチン事業

生産拠点 富士工場（静岡・富士宮市）

コラーゲンを分解、精製して製造したゼラチン及びコラーゲンペプチドを取り扱い。ゼラチンは古くから私たちの暮らしに活用され、ゼリーやグミキャンディ、カプセル、コンビニエンスストアのレンジアップ商品等に使用されている。コラーゲンペプチドは、低分子で体内に吸収されやすく、様々な機能が明らかになっている素材。健康や美容への効果が期待でき、水に溶解させることが容易なため、健康食品の飲料や粉末商品、錠剤など様々な用途で使用されている。最新設備を導入したコラーゲンペプチド製造専用施設CQT棟では、長年培った製造技術と最新の研究を活かした「Collagenomics」等を製造し、市場やお客様のニーズに対応した製品の提供に取り組んでいる。



※ニッピーペプチド、Collagenomicsは、ニッピーの登録商標です



コラーゲン・ケーシング事業

生産拠点 富士宮工場、芝川工場（静岡・富士宮市）

タンパク質のひとつであるコラーゲンを使用したソーセージの皮「ニッピー コラーゲン ケーシング」や可食性の紐「ニッピー スtring」を取り扱い。ケーシングは100%ウシ由来のコラーゲンを使用。サイズはもちろん、食感に関わる皮の厚みなど、お客様のご要望に幅広く対応し提供している。植物性色素を用いたカラーケーシングや天然素材を使用した印刷ケーシングも取り扱う。ソーセージの皮にイラストをプリントする方法は当社独自の技術。静岡県富士宮市の生産拠点で、富士山の天然水を使用して製造し、世界30カ国以上に輸出。Stringは、ケーシングと同じ原料を使用し、もち巾着や昆布巻き、ロールキャベツなどの紐として利用されている。



事業紹介



バイオケミカル事業部

生産拠点 ニッピテクノセンター（東京・足立区）

コラーゲン及びゼラチンの基礎研究で培った技術を応用したバイオテクノロジー分野から、高分子研究の成果を用いたケミカル分野まで、幅広い機能素材や高付加価値製品を取り扱う。

バイオ部門では、医療用途向けのコラーゲンやゼラチンをはじめ、ライフサイエンス研究試薬、細胞培養用基材、動物用体外診断用衣料品などの製品を製造販売。コラーゲンを活かしたペット用サプリメントも取り扱い。

ケミカル部門では、当社独自の技術を応用して開発した化学架橋塩化ビニルを主軸に、電線被覆用コンパウンド、マスキングフィルム、床材溶接棒等のケミカル製品を取り扱う。



バイオマトリックス研究所

生産拠点 バイオマトリックス研究所（茨城・取手市）

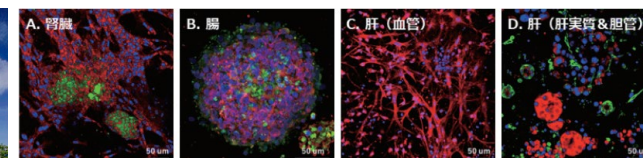
ヒトの身体を構成する細胞のうち、赤血球などを除いた十数兆個の細胞は、細胞同士、あるいは細胞が合成分泌して蓄積する細胞外マトリックスという足場に接着しています。その主成分は、コラーゲンというタンパク質。

コラーゲンは、ヒトの全タンパク質の約30%を占めているといわれ、骨や皮膚、腱などの主成分であるだけでなく、あらゆる臓器に存在して、多様な細胞や組織が清浄機能を発揮するための環境を提供するとともに、多くの疾患や成長・老化といった生命現象に密接に関与している。

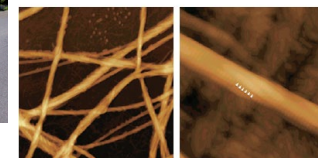
バイオマトリックス研究所では、生化学や細胞生物学、細胞化学を中心とした、ライフサイエンス研究用試薬、医薬品、健康食品、化粧品などの分野において、人々の暮らしと健康に貢献するような研究開発に取り組んでいる。



バイオマトリックス研究所（茨城・取手市）



三次元培養基材によるオルガノイド形成



コラーゲン再構成線維の原子間力顕微鏡像

事業紹介



化粧品関連事業

当社は、コラーゲンメーカーとしての強みを活かし、高品質のコラーゲン製品を提供。
主力商品として「スキンケアジェルNMバランス」と「ニッピコラーゲン100」があり、ロングセラーに。子会社である株式会社ニッピコラーゲン化粧品において、通信販売によりお客様にお届け。



エヴァライジングシリーズ

エクシードシリーズ

UVケ



コレセンス
エンリッチ ナイトマスク

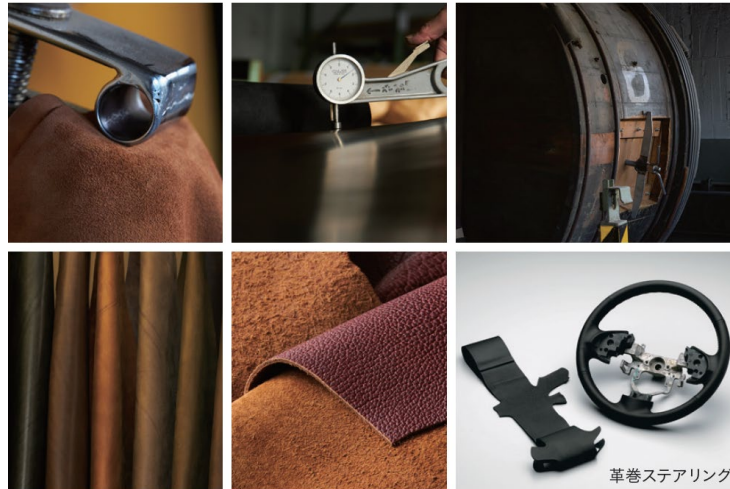
ニッピコラーゲン
スキンケア ジェル NMバランス

NIPPI COLLAGEN
100



皮革関連事業

創業事業である皮革鞣製造業からは退いたものの、当社が100年にわたり蓄積した皮革製造販売のノウハウは子会社である株式会社ニッピ・フジタが継承。同社は皮革のプロフェッショナル企業として、世界中のタンナリーとユーザーをつないでいる。



革巻ステアリング



賃貸・不動産事業

当社開発推進室では、土地再開発計画立案から実現まで、計画管理運営等不動産事業全般を推進。
東京本社所在地、京成線千住大橋駅前に広がる12万㎡超の複合タウン構想「ポンテグランデTOKYO」地区開発をはじめ、大阪府大阪市においても賃貸事業及び土地開発事業に取り組むなど、当該地区の資産価値の増大に貢献。



みらい千住

ポンテグランデTOKYO

PONTE GRANDE - TOKYO

●昔と未来、●空と緑・花、●川とまち、●風景と建物、●人と人 の5つの要素を結びます。

本資料に記載されている情報は、現時点の経済、規制、市場等の状況を前提としています。

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されており、将来の結果や業績を保証するものではなく、既知および未知のリスクや不確実性が含まれています。その結果、将来の実際の業績や財務状況は、将来予測に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予測とは大きく異なる場合があります。